

トピックス
4

千葉県及び日本大学生産工学部と 連携協定を締結しました

協定締結日:令和8年1月26日(月)

千葉県、日本大学生産工学部及び千葉県下水道公社は、下水道分野における調査研究を通じて、実践的な技術や知見を獲得することや、優秀な技術者を育成することなどを目的として連携協定を締結しました。

■ 連携の趣旨及び内容

- ・ 維持管理マネジメントに関すること
- ・ 水処理及び汚泥処理の手法に関すること
- ・ その他、3者が必要であると認める事項に関すること

■ 協定締結日

令和8年1月26日(月)

■ 協定締結者

千葉県知事 熊谷 俊人
日本大学生産工学部 学部長 澤野 利章
公益財団法人千葉県下水道公社 理事長 澤 宏幸



[写真左から]
日本大学生産工学部 澤野学部長、千葉県 熊谷知事
公益財団法人千葉県下水道公社 澤理事長

トピックス
5

江戸川第一終末処理場の愛称が 決定しました

「^{みょうでん}妙典江戸川水再生センター」

昨年の江戸川第二終末処理場の愛称決定(南行徳江戸川水再生センター)に続き、今年も地元住民との協議を重ねて、令和8年3月26日に江戸川第一終末処理場の愛称が決定しましたのでお知らせします。



令和8年4月 第58号 発行 公益財団法人 千葉県下水道公社
編集 〒261-0012 千葉市美浜区磯辺8-24-1 TEL.043-278-1631 FAX.043-277-9657

夏休み親子下水道教室 施設見学会 を 南行徳江戸川水再生センターで開催しました

公社では9月10日の「下水道の日」に関連して、下水処理場周辺にお住いの小学生(4~6年生)とその保護者の方々を対象とした、「夏休み親子下水道教室」(施設見学会)を毎年開催しています。

普段見る機会が少ない下水道施設を見学していただくことで、日ごろ何気なく使っている下水道について理解を深めていただくとともに次世代を担う子供たちの自由研究にも役立ててもらうため、夏休み期間(8月23日(土))に、市川市福栄にある南行徳江戸川水再生センターで開催しました。

開催にあたり、事前に下水処理場周辺の小学校に案内したところ、78名(33家族)にご参加いただきました。

昨夏も猛暑が続いていましたので、事前に暑さ対策として飲料水の持参などを案内するとともに、会場内では麦茶や塩飴を配布しました。



(2ページに続く)

表紙	夏休み親子下水道教室(施設見学会)を開催しました	P6	下水道担当職員講習会を開催しました
P2~P3	「下水道普及啓発」実施状況について	P7	自衛消防訓練の実施 / 災害資機材について
P4	「ちばSDGsパートナー」登録について	P8	3者連携協定の締結 / 江戸川第一処理場の愛称決定
P5	ドローンを活用する取組を始めました		

夏休み親子 下水道教室

夏休み期間中に下水処理場で開催しているもので、会場は南行徳江戸川水再生センターで、8月23日(土)に開催しました。

内容は処理のしくみ等のDVD鑑賞に始まり、処理場の概要説明、処理場内を見学してもらいました。

最後に微生物の観察や、実際に家庭から排出される下水の汚れ具合を実際に再現した水質実験では、参加した児童だけではなく保護者も水は簡単に汚れてしまう現実を知り驚かされていました。



小学校に配布した開催案内

出張 下水道教室



汚れた水の浄化に興味深々です

県内の小学校へ職員が出向き、下水道の役割を学び水環境への関心を深めてもらうため、「出張下水道教室」を19校(38授業)で実施しました。

受講した児童数は1,040名に達し、みんな熱心に楽しく下水道の学習や実験に取り組みました。

授業内容は児童たちが実際に水を汚して(着色)自ら行う水質浄化実験を通じて、水は簡単に汚れるが、浄化するためには大変な労力と時間を要することが実感できる構成になっています。

活性汚泥(微生物)の観察では、微生物の動きが児童たちに驚きを与え、水をきれいにする仕組みを深く理解するとともに、水環境に対する関心が向上しました。授業の最後に下水道の適切な使い方などを説明して、水環境に負荷をかけない生活を家族で取り組んでもらうようお願いをしました。

参加型事業

出張下水道教室や施設見学会などで、参加者に直接下水道の知識などを伝えることにより、より深く下水道や水環境に対する理解を促しながら、参加者が二次発信者となり啓発効果の波及が期待できる参加型啓発事業を行いました。

「エコメッセ 2025 inちば」 出展

“持続可能な社会の実現”をメインテーマに、市民・大学・企業・行政による対等なパートナーシップのもとで実行委員会を組織し、1996年から毎年「環境活動見本市(エコメッセ)」が開催されています。

千葉県内外から環境保全に取り組むさまざまな団体が出展し、「環境問題に関する市民団体、企業、行政の取り組み」「環境に関する問題の提起と共有」「環境にやさしいものなどの紹介」を、子どもから大人まで来場者楽しくわかり易く伝え、誰もが環境配慮行動・保全活動を実践すること(環境保全の輪を広げる)を目的とする「千葉県最大の活動見本市」です。

4ページでご紹介しますが、令和7年4月に登録された「ちばSDGsパートナー」として、一層の普及啓発促進に向け、新たに県下水道課と共同で水環境をテーマとしたイベントに出展しました。



当公社ブース

令和7年度の実施状況について

いますが、その実施状況についてご紹介させていただきます。

下水道普及啓発

当公社は県民の皆様へ下水道の関心を高め理解を深めていただくため、様々な普及啓発活動を行っています。

発信型事業

9月10日の「下水道の日」に合わせて、横断幕の掲出、新聞・ラジオなどによって多く県民の方々に情報発信を行うとともに下水道に関連する啓発品を配布しました。

啓発ポスターの 掲出・配布

下水道推進標語をデザインしたポスターを作成し県内のJR(成田・内房・外房・総武本線)をはじめ私鉄各線や路線バスなどに掲出しました。

また、千葉県の関係出先機関や県内54市町村に啓発品を配布してポスターの掲示をお願いしました。



デジタル サイネージ による啓発



複数路線が乗り入れ、多くの人々が行き交う「海浜幕張駅」や「柏駅」、「流山おおたかの森駅」に設置されている大型ビジョン等で下水道の日や下水道の適切な使い方などをPRする動画広告を放映しました。

ラジオによる 啓発

地元FMラジオ「BAYFM」で下水道の日や下水道の適切な使い方などを紹介するCMの他、生放送でDJが下水道の役割などについて説明するCMも放送しました。

横断幕の 掲出



8月14日から1か月間、国道126号(旧16号)千葉市六川、国道357号ポートアリーナ、浦安駅前、国道14号船橋市宮本、国道356号印西市大森、松戸野田線流山市南流山、国道296号八千代市大和田新田に設置されているそれぞれの歩道橋に標語入り横断幕を掲出しました。

新聞、 フリーペーパー の掲載



9月10日に千葉日報の紙面において普及啓発の一環で実施している「出張下水道教室」を紹介する記事とPR広告を掲載しました。

また、各地域のフリーペーパーで下水道の日や下水道の適切な使い方などを紹介した記事を掲載し県内約170万世帯の方々にPRしました。

啓発品の 配布



「9月10日は下水道の日」をデザインしたキッチンペーパーと当公社マスコットキャラクター「スーア」くんがプリントされたボールペンを作成し、キッチンペーパーは啓発ポスターとともに県内市町村などに配布しました。

ボールペンや副読本「下水道を学ぼう。」は出張下水道教室の受講者やイベント参加者などに配布しました。

「ちばSDGsパートナー」 に登録されました

「ちばSDGsパートナー登録制度」とは、県内企業等におけるSDGs推進の機運を醸成するとともに、具体的な取組を後押しするため千葉県が創設した制度です。

公社は流域下水道施設の維持管理、下水道知識の普及啓発、公共下水道に係る建設等を通じて、公衆衛生の向上や浸水の防除、公共用水域の水質の保全に寄与し、持続可能な社会づくりに貢献します。

また、職員一人ひとりが、働く意義を実感でき、その人らしく、やりがいを持って働けるよう、デジタル技術を活用した業務の効率化や、調査研究の実施と業務への活用、技術力の向上、働きやすい環境の整備等、2030年を目標に取り組んでまいります。



SDGs達成に向けた活動計画

流域下水道施設の適切な維持管理を通じて放流水質の適正化や温室効果ガス排出量の抑制を図り、普及啓発活動により下水道の重要性等を説明して下水道事業への協力や使用料支払いへの理解を得るとともに、市町村を支援して工事等を実施することで経済の成長を促してまいります。

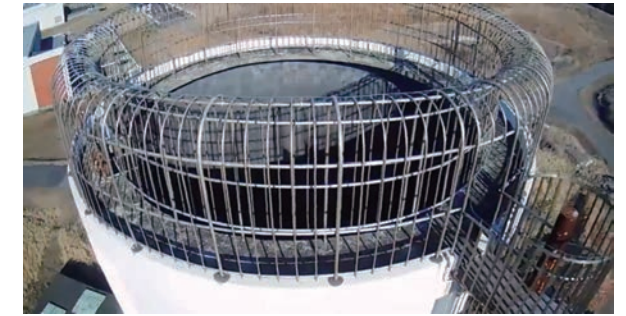
分野	目的	活動内容	2030年目標
環境	環境への負荷の低減 6 気候変動に由来する汚染を削減する 7 再生可能エネルギーを拡大する 13 気候変動に適應的な産業と地域づくり 14 海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	<ul style="list-style-type: none"> 下水道施設の適切な維持管理 下水道の整備促進 	下水処理から排出される温室効果ガス 0.199t-CO ₂ /千m ³ [2023年] 0.243t-CO ₂ /千m ³
社会	下水道の役割や重要性、適切な使い方の理解促進 3 持続可能な消費と生産パターン 11 気候変動に適應的な産業と地域づくり 12 つくる責任 つかう責任	<ul style="list-style-type: none"> 出張下水道教室や施設見学会の開催 小学生用副読本「下水道を学ぼう」の発行 横断幕、PRポスター、PR放送による広報 	下水道教室受講者及び施設見学者数 2,000人/年 [2023年] 1,211人/年
経済	下水道施設整備のフロー効果やストック効果による経済の成長 8 働きがいも経済成長も 9 産業と地域資源の統合的な開発	<ul style="list-style-type: none"> 下水道施設の整備、改築、更新、耐震化等に係る調査、設計、工事の実施 	建設受託に係る支出額 15億円/年 [2023年] 12億円/年

ドローンを活用する 取組を始めました



上空から污泥焼却灰焼成棟を撮影した画像

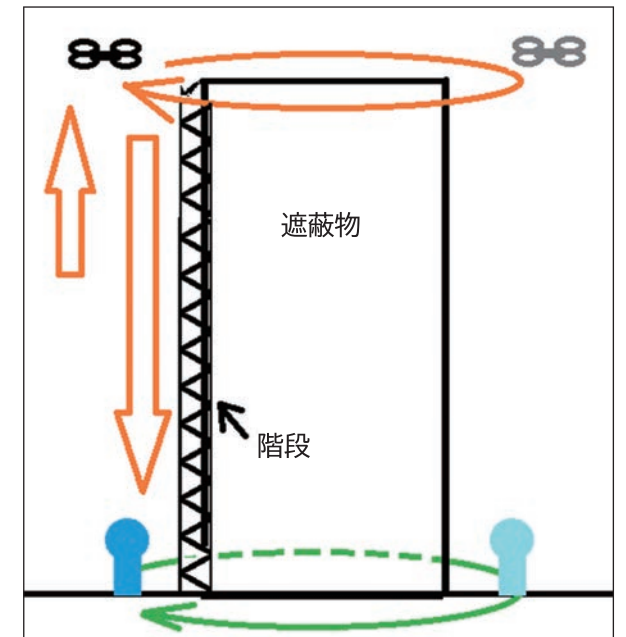
維持管理ではデジタル技術を積極的に活用し、業務の高度化・効率化に取り組んでいます。その一環として行っている、設備の点検にドローンを活用する取組について紹介します。



実際に点検結果として設備(サージタンク)の上部を撮影した画像



ドローンに届く電波の範囲の模式図①



ドローンに届く電波の範囲の模式図②

今回使用した機体は100g未満であることもあり、資格が無くとも飛ばすことができますが、多少の風でも機体が風に流されるため、操作に慣れるまで多少時間がかかりました。

スマートフォンのアプリを用いてカメラの画像を保存していたところ、ドローンとスマートフォンの間に遮蔽物があると、電波が遮られカメラの画像の送信に不具合が生じることがわかりました。(ドローンの操作には問題ありませんでした) そのため、電波が遮られないように適宜移動しながらの撮影が必要となりました。

撮影した画像・映像については多少のブレは生じていますが、設備の状態把握は十分可能であり、点検に活用できると感じています。

トピックス
1

下水道担当職員講習会を開催しました

令和7年5月9日(金)・10月22日(水)

例年開催しています下水道担当職員講習会では、5月に、下水道に初めて関わる職員でもわかるような「処理場管理の基本的な内容」や「下水道事業の課題」をテーマとし、10月には、令和6年1月の能登地震や令和7年1月の八潮市道路陥没事故に対応した内容などテーマに沿って講師から説明をいただきました。

令和7年度は、約200人にご参加いただきました。

今後も職員の皆様に役立つ内容の講習を行ってまいります。

講習会の内容は以下のとおりです。

開催日	テーマ
令和7年 5/9(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 処理場管理の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・知っておくべき下水道法及び専門用語 ・下水処理(水処理・汚泥処理)の仕組みと特徴 ・処理場維持管理の留意点 2. これからの下水道事業の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターPPPの導入に向けた動向や状況について ・脱炭素化の取組みについて
令和7年 10/22(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下水道事業を取り巻く流れ 2. 下水道管路電子台帳等のサービス <ul style="list-style-type: none"> ・すいすいプラットの紹介と令和9年度交付要件化への準備について 3. 能登半島地震及び八潮市道路陥没事故への対応について



トピックス
2

令和7年度 自衛消防訓練の実施

令和7年9月25日(木)
南行徳江戸川水再生センター

令和7年9月25日(木)に市川市南消防署立ち合いのもと千葉県江戸川下水道事務所主催の自衛消防訓練に公社も参加しました。

この訓練は、火災などの災害発生時における初期消火や避難誘導を行い、被害を最小限に抑えることを目的とするものです。



トピックス
3

下水道に関連した被害を想定した災害資機材を配備しています

項目	個数	仕様
簡易(使い捨て)トイレ	150箱 (1箱に100個)	便座に装着するタイプ
マンホールトイレ	・通常タイプ 18セット ・要配慮タイプ 6セット	マンホールトイレと照明、仕切板、防犯ブザー
止水板	75枚	NOAQボックスウォール

■ 保管場所

- 印旛沼流域：千葉市美浜区磯辺
花見川終末処理場内
- 手賀沼流域：我孫子市相島新田
手賀沼終末処理場内
- 江戸川左岸流域：市川市国府台
市川ポンプ場内

災害等が発生した際に当公社で貸与する資機材を配備しました。

貸与品は原則返却としていますが、簡易(使い捨て)トイレは返却不要です。



※イラストはイメージです